

PlanetCross v1.2.0 Release Notes

はじめに

本ドキュメントは PlanetCross v1.2.0 のソフトウェアバージョン情報、機能拡張、制限事項、不具合改修などを記載したものです。

サポート環境

本バージョンのサポートするプラットフォームにつきましては、「PlanetCross 概要」ならびに各ソフトウェアのインストールガイドを参照願います。

尚、本バージョンより、Security Server、Connector については「Red Hat Enterprise linux」（以降 RHEL と表記）に対応します。

リリースされるソフトウェアバージョン

今回リリースされるソフトウェアバージョンは以下になります。尚、赤字部分が前版(v1.1.2)との差分になります。

【重要】PlanetCross v1.1.2(2019 年 6 月 14 日)より、リポジトリサーバーが統一され、本番（本番）／検証（JP-TEST）環境による差分が無くなりましたのでご注意願います。今後は従来「本番（JP）」として使用されていたリポジトリサーバーをご使用願います。

#	ソフトウェア	バージョン
1	Security Server	6. 20. 2-1
2	Connector	4. 2. 0-1
3	テストポータル(MISP2)	6. 20. 0-1

バージョンアップ方法について

バージョン指定でのインストールでの実施をお願い致します。手順に付きましては「PlanetCross v1.2.0 インストール別紙」をご確認願います。

機能拡張・改善

PlanetCross v1.2.0 での機能拡張・改善の内容について説明します。

【Security Server の機能拡張・改善】

#	項目	説明
1	RHEL 対応	サポート OS として RHEL (7.2) が追加されました

【Connector の機能拡張・改善】

#	項目	説明
1	RHEL 対応	サポート OS として RHEL (7.2) が追加されました
2	サポート DB 拡張 (動作検証済)	以下サポート DB (動作確認済) が追加されました。 ・ MySQL5.6 ・ MySQL5.7 ・ Oracle 11g Release 2 ・ SQL Server2016

機能制限

本バージョンでの制限事項はありません。

不具合の修正

本バージョンでの不具合修正はありません。

現在判明している不具合

本バージョンにて、現在以下不具合が判明しております。現在対応を行っており、順次改善を予定しておりますが、不具合対応が完了するまで回避策にて運用を行っていただきたくお願い致します。

#	対象ソフトウェア	説明
1	Connector 既知事象	[事象] Connector にてサービス登録や削除を複数画面にて大量に輻輳して行った際、Connector が利用不可となり Security Server からの Add WSDL 等がエラーとなる事象が発生しております。 [回避策] 複数人での利用を制限するなど登録削除作業の輻輳を避けて頂くよう運用回避願います。 本不具合は旧バージョンでも発生する可能性があります。
2	Connector (SQL Server) 既知事象	[事象] WSDL 登録時、SQL 文で「ORDER BY」関数を指定した際、以下エラーが発生する場合があります。 「RequestError: The ORDER BY clause is invalid in views, inline functions, derived tables, subqueries, and common table expressions, unless TOP, OFFSET or FOR XML is also specified.」 [回避策] エラー発生した場合、SQL 文の末尾に以下を加えることで回避できます。 OFFSET 0 ROWS ※v1.1.2 追記事項 MS SQL 2008 R2 では「OFFSET 0 ROWS」の回避策が効きません(OFFSET 句は MS SQL 2012 から対応)。 [回避策] 「TOP 100 PERCENT」を利用することで回避可能です。 ただし、この場合 ORDER BY の並び順が保証されないため、「asc」、「desc」を明示することを推奨致します。 本不具合は旧バージョンでも発生する可能性があります。

#	対象ソフトウェア	説明
3	Connector 既知事象	[事象] MISP2 にてサービス実行後、一定時間 RDB アダプターに接続できなくなります。 [回避策] 稀に発生する現象であり、発生した際にサービスを再起動いただくことで事象が改善されます。 本不具合は旧バージョンでも発生する可能性があります。
4	Connector 既知事象	[事象] Connector にて大文字・小文字が異なる同一サービス名でサービス作成後、Security Server にて対象サービスを登録(Add WSDL)しようとする、エラー発生し登録できない。 例：以下 2 つの同一名で大文字・小文字が異なるサービスを作成 サービス 1 : TEST サービス 2 : Test 上記どちらも登録不可となります。 [回避策] 大文字・小文字違いの同一サービス名を登録しないでください。 本不具合は旧バージョンでも発生する可能性があります。
5	Connector 既知事象	[事象] SQL の先頭で with 句を使用した場合、SELECT/INSERT/UPDATE 文と誤判断し、例えば以下の場合、対象行しか返されず結果クエリが返されません。 例： with a as (select * from alfa) select * from a where id = \$id [回避策] with 句は非サポートとなります。先頭に with 句を使用しないでください。 本不具合は旧バージョンでも発生する可能性があります。

#	対象ソフトウェア	説明
6	Connector (MySQL、 SQL server) 新規判明	[事象] SQL 文にて「INNER JOIN」使用時に Connector でのサービス作成時に、以下エラーが発生する場合があります。 ■My SQL の場合 Error: ER_DUP_FIELDNAME: Duplicate column name 'id' ■SQL server の場合 RequestError: The column 'id' was specified multiple times for 'dummysql'. 使用 SQL 例: <pre>SELECT * FROM hospital2 B INNER JOIN patient2 K ON B.hospital_code = K.hospital_code INNER JOIN history2 R ON R.patient_id=K.patient_id;</pre> [回避策] SELECT の出力カラム指定に全カラム (*) 指定時、結合対象テーブルに同一列名があったため、列名重複によるエラーが出力されるものになります。 上記例の SQL 文より、重複列名を削除し重複を無くす、もしくは AS 句を使い別名を定義して重複を無くすことでエラーが発生しなくなります。 SQL 修正例: <pre>SELECT * FROM (SELECT * FROM hospital2 B INNER JOIN patient2 K ON B.hospital_code = K.hospital_code INNER JOIN history2 R ON R.patient_id=K.patient_id) as dummysql;</pre> 本不具合は旧バージョンでも発生する可能性があります。

注意事項

本バージョンでの注意事項を以下に示します。随時マニュアルに反映していきます。

#	対象ソフトウェア	説明
1	Security Server	[事象] WSDL 登録時に [Failed to add WSDL: CommonUi::ScriptUtils::RubyExecutableException] のエラーが表示され、WSDL の登録が行えなくなることがある。 [回避策] 原因はメモリ不足となります。swap を有効にすることで回避可能です。発生した際はサービスを再起動いただくことで事象が改善されます。 本事象は旧バージョンでも発生します。

更新履歴

バージョン	日付	変更履歴
第 1 版	2019 年 8 月 1 日	新規作成
第 1.1 版	2020 年 2 月 5 日	フッターを更新